

令和7年度第2回 防府市地域公共交通活性化協議会 議事録

■開催日時・場所

令和7年7月18日（金）午後3時から午後4時10分まで
防府市文化センター

■次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議題

防府市地域公共交通計画（素案）について

4. その他
5. 閉会

■配付資料

	資料名
1	令和7年度第2回防府市地域公共交通活性化協議会 次第
2	資料1 防府市地域公共交通計画（概要版）（素案）
3	資料2 防府市地域公共交通計画（素案）
4	参考資料1 これまでの地域公共交通計画策定の流れ
5	参考資料2 今後の予定
6	防府市地域公共交通活性化協議会委員名簿
7	席次表

■出席者名簿 敬称略・順不同

	区分	所属団体・役職	名前	出欠
委員	学識経験者	徳山工業高等専門学校 土木建築工学科准教授	目山 直樹	出席
	地域公共交通の利用者等	防府市自治会連合会	権代 祥一	出席
		防府市老人クラブ連合会 理事	永田 吉孝	出席
		防府市障害福祉団体連合会 会長	中村 信也	出席
		市民代表	東福 俊明	出席
	公共交通事業者等	防長交通(株) 乗合営業部長	河合 貴志	出席
		J Rバス中国(株) 生活交通活性化推進室長	吉崎 祐司	出席
		西日本旅客鉄道(株) 防府駅長	古村 敏彦	出席
		(有)野島海運 監査役	西山 寛	欠席
		(一社)山口県タクシー協会 理事	重舩 伸	出席
		山口県交通運輸産業労働組合協議会 (私鉄中国地方労働組合防長交通支部防府分会 副分会長)	中村 圭吾	出席
	道路管理者 港湾管理者	中国地方整備局山口河川国道事務所 交通対策課長	東 耕司	出席
		山口県防府土木建築事務所 維持管理第一課長	吉岡 進	出席
		山口県防府港務所 主任	伊藤 晃嗣	欠席
	警察	防府警察署 交通課長	岡本 武 (代理：宮本 啓示)	代理 出席
	関係機関	中国運輸局山口運輸支局 首席運輸企画専門官	國宗 裕司	出席
		山口県観光スポーツ文化部 交通政策課長	田村 良雄	出席
	計画作成市	防府市 総合政策部長	永松 勉	出席
事務局		総合政策部 部次長	磯邊 範子	
		福祉部 部次長	伊藤 忍	
		総合政策部政策推進課 課長	関屋 拓亮	
		総合政策部地域振興課 課長	西野 紀子	
		福祉部高齢福祉課 課長	作間 裕子	
		総合政策部政策推進課 課長補佐	末冨 真一郎	
		総合政策部政策推進課交通政策係 係長	川崎 雄樹	
		総合政策部政策推進課交通政策係 主任	藤田 卓	
		総合政策部政策推進課交通政策係 主任主事	鶴原 浩平	

※報道：ほうふ日報

■議事録

1. 開 会

2. 会長挨拶

地域社会では少子化や人口減少に伴い、公共交通の運転手不足や事業者の減少が進み、サービスの維持が難しい状況にある。このような状況下で、防府市の公共交通計画策定では、これまでの取り組みを基盤としつつ、新たな課題に対応可能な仕組みの構築が必要。幅広い関係者の意見を取り入れ、市民満足度を高める計画を目指していきたい。本日の協議が計画実現と地域の持続可能な発展につながることを期待するとともに、皆様のご協力をお願いする。

3. 議 事

会長から会議の公開について確認後、議事を進行した。

協議事項 防府市地域公共交通計画（素案）について

事務局から資料 1 について説明。

- A 委員 現在、防長交通は医療センターを経由して自由ヶ丘団地に至る路線を運行しているが、医療センターの移転後は所要時間が延びるため、運転士の労働時間の増加を招き、運行が厳しくなる。

潮彩市場・メバル公園へのバス運行は現状行われておらず、新たに路線を設定するとなると運転士不足の問題がさらに深刻化する。新規路線運行は非常に厳しい状況。

特定の施設名を挙げると、利用者に過度な期待を与える可能性があるため、「主要な公共施設を結ぶ再編を検討」といった抽象的な表現に抑えるべき。

限られた運転手での運行を維持するためにも、補助金の提供だけでは解決できない運転士不足の課題を踏まえて計画を検討していただきたい。

- 事務局 公共施設を結ぶ路線再編や、まちづくりとの連携を意識した表現に修正していく。

- B 委員 現在の心身障害者福祉タクシー運賃助成事業では、助成枚数が年間 50 枚となっている。医療センターへの通院などで毎月利用する場合、年間枚数が不足してしまうケースがある。

「移動支援を引き続き行う」との記載に加え、助成内容の見直しを検討する文言を盛り込むべき。特に、助成枚数の増加など利用者の実情に沿った制度改善を検討してほしい。

事務局 福祉タクシー及び高齢者等バスタクシー助成事業において、利用者から最も要望が多いのは助成枚数に関するものである。見直しの検討の対象としたい。

C 委員 前回の防府市の地域公共交通網形成計画では、第 2 章に地勢や人口分布、市民の移動実態などが詳細に書かれていた。しかし、今回の概要版資料 2 では、そういった部分がかなり省略されている印象を受ける。

また、前回計画には立地適正化計画や観光計画など、他の計画との連携事項が記載されていたが、こちらも省略されている。

さらに、基本計画に関する目標が今回の資料には記載されていないように思う。基本計画の目標については、法定計画で記載が求められる項目のため、今後の素案から新たな案の作成に向けて、ぜひ検討いただければと思う。

事務局 今回の計画に関しては、可能な限り情報を絞り込み、分かりやすい計画となるよう意識して策定した。具体的な取組内容を強調する形式を優先し、法定外の項目、例えば地勢や地形、関係計画などについては今回省略している。

しかしながら、いただいたご指摘を踏まえ、必要に応じてこれらの記載内容について再検討し、案の作成時点で記載の有無を確認していきたい。

また、法定項目である基本計画の目標部分については、内容を確認した上で適切に対応し、記載する方向で進めたい。

目山会長 まず「交通弱者」という表現について、適切な言葉ではない可能性がある。障害を持つ人の移動環境が確保されている場合や支援が整っているケースもあり、弱者という括りが妥当かを再検討するべき。

次に、IT 環境や DX 技術の急速な進化に対する柔軟な対応が必要。新しい技術を公共交通計画に取り込む姿勢を記載すべき。技術の応用により利用実態を検証し、効率的な助成や運用が可能になる。

野島航路の記述についても、地域施策を広い視点で包含する「多面的な取り組み」といった記載が必要。住民との繋がりや地域活性化まで視野を広げるべき。

計画全体において、新しい技術や変化を柔軟に取り込み、利用者目線と事業者目線を重視する姿勢を持つべきだと感じる。提案として事務局に検討をお願いしたい。

事務局 交通弱者という表現については、結果として同じままになるかもしれないが国や県との協議を通じて適切な表現を検討する。変更が難しい場合もあるが可能な限り見直しを図る。IT 技術や野島航路に関する指摘についても、現代の

変化が激しい時代に対応する柔軟な記述が必要だと認識している。

今回の素案は案の段階であり、今後も個別に意見を寄せていただき、それを反映させた形で具体化する。素案完成後、議会説明やパブリックコメントを進める予定。意見交換を通じてより良い計画案を仕上げていく方針。

D 委員 公共交通の利用促進に関して、マイクロバスの運用について提案。午前は遠距離通学支援、午後は地域クラブ活動の移動に使われると思うが、これらの運行の空き時間を活用して自治会と連携し、高齢者支援を行うことで車両の有効活用を図るべきである。生活に支障がない形での運用が望ましい。

事務局 教育委員会が来年度に向けてマイクロバスの運用について検討中である。委員の提案については地域からも意見が挙がっており、教育委員会を中心に関係機関と連携しながら検討を進める方針である。

E 委員 防府市では、乗務員確保が全国的な課題となる中、市の支援を受けながら一定の対応ができています。今後は公共交通のデジタル化を進めることが重要であり、タクシーやデマンドタクシーでは配車アプリを活用することで効率化や利便性向上が期待できる。特に高齢者への利用促進を進めるため、講習会などの開催を提案する。

目山会長 今後、デジタル技術の普及をさらに進めるため、タクシー事業者との連携を強化し、高齢者へのサポートを含めた具体的な施策など新たな取り組みを周知するイベントや体験会の開催を検討すべきである。
このような取り組みを通じて地域課題の解決に向けて計画を推進して欲しい。

4. その他（今後の予定）

参考資料2について、事務局から説明。

5. 閉 会
